

全科協ニュース

1978年1月1日発行
(通巻第38・39合併号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園
国立科学博物館内

☎ 110

Tel. 03-822-0111(大代)

おもな内容：◇1978年を迎えて ◇特別展「化石～ジュラ紀の生物～」を終えて 神奈川県立博物館 ◇特別展「レオナルド・ダ・ビンチ」について 斎藤報恩会自然史博物館 ◇アイディア・コーナー 既製パネルの改良 ◇会員館員の紹介 横須賀市博物館
◇サイエンス ミュージアム 版4 スライド整理学 東京芸術大学 前野まさる

1978年を迎えて

全国科学博物館協議会理事長 福田 繁

全科協館園の皆さんの御健勝と御発展を祈ります。昨年5月にソ連で開催された第11回イコム大会は、「博物館と文化交流」をテーマとして、世界各地から1,500人も博物館関係者が参加して、未曾有の盛会であった。

この大会の最終日にモスクワの総会で採択された決議は、大会のしめくりであると同時に、今後の世界の博物館が指向を要する重要な問題を含んでいた。

9つの決議のなかで、1) 博物館相互の文化交流、2) 博物館と国際観光、3) 国際レベルにおける文化遺産および自然遺産の保護、4) アジア・アフリカおよびラテンアメリカの発展途上国の博物館職員と修復技術者の訓練の援助、の4つは、今後の博物館の国際交流、国際協力のあり方に関する重要な問題であると思う。

国際交流、国際協力という言葉は言い古された言葉ではあるが、現実的、具体的問題になると博物館相互間あるいは地域間においてまだ十分な成果をあげていないのが今日の状況である。

イコムの「博物館と文化交流」についての理念は、「あらゆる地域において国家間の文化交流が国家と異文化の間の相互理解と協力を促進し、国際関係の緊張緩和の強化に資するものであり、諸国民の文化の絶えざる発展に不可欠の高遠な目的が博物館によって達成される」からというものである。

このために、各国の法令、伝統、および関連地域の利益を十分に尊重しながら、博物館相互において特別展、展示品、職員研修、専門技術者の交流などを奨励

し、さまざまなレベルでの協力を拡大し増進する必要があることを強調している。

また、いままであまり取り上げなかった国際観光についてもその役割が見直され、「博物館が所有する文化財が諸国民の相互理解のために大きく貢献するばかりでなく、観光収入はその国の財政にとっても重要である」という観点から、当該国の環境と文化財に悪影響がない限り、できるだけ積極的にその拡大を図り、観光客の受入体制の改善を図るべきであると指摘している。

さらに、アジア・アフリカおよびラテンアメリカ地域の後進国の博物館に対して、職員および技術者の訓練について先進国の博物館が援助を行い、これらの後進国から選ばれた職員および技術者が世界の大博物館で研修を受け易くし、あるいは、技術者を訓練し得る専門家をこれらの国々に派遣するための努力を倍増するよう要請している。

以上のような問題からみて、わが国の博物館においても今後外国の優れた博物館と展示資料の交換や専門職員の交流などを一層活発に行う必要があると同時に、後進国等の博物館から求められた場合には、資料の提供や専門技術者の派遣などによって、協力援助の必要があろうと思う。

現在の国際社会において、わが国の博物館の地位は決して低くはない。後進国などから高く評価されている博物館も少なくないから、今後国際社会において十分その役割と責任を果たすことが望まれるのである。

1978年のはじめにあたって

宮崎大学農学部附属農業博物館長 清水 薫

本館は、昭和10年、卒業生の寄附により設立された唯一の農業博物館として、これまで広く学生の教材とする外、関連の展示会をも開催し、一般に公開、農業教育の啓蒙に努力してきた。

本学の移転実施計画を機会に、特に地域の特徴ある西南暖地環境に即した農林水畜産物の生産・加工・保存等の技術革新に関する資料をも展示し、更に将来地域産業の発展はもとより学術文化の向上にも役立てるべく次のことに努めたい。

1. 40余年にもなるが、いまだに附属機関として認められていないので、独立の機関として正式の農業博物館として取り上げられるよう努力する。
2. 現有建坪(407 m²)を800 m²とし、専任の職員の配置されるよう努力する。

佐賀県立博物館長 松崎 利彦

当館もお蔭様で開館9年目を迎えました。地域社会をはじめ各方面の方々の御理解ある御協力を得て総合博物館としての正常な運営ができるようになったことを感謝いたします。

本年は5月に国立科学博物館の「科学関係の移動展」を導入したいと考えております。この展示は県内の諸学校をはじめ一般にもよく理解され有意義なものにしたいと計画しております。

年頭にあたり皆様方の御支援御協力をお願いして御挨拶いたします。

徳島県博物館長 竹原 保次郎

国際状況のきびしさは、今後もなお続くものと思われるが、これまでの経済成長一本の路線から大きく脱皮し、文化の向上、社会福祉の推進に向かわなければならぬと思われる。その際文化面を代表し、社会教育に大きな役割を果たす博物館の存在意義は誠に大きい。本館は総合博物館として今後施設面の拡充、内容の充実を更に一層推進し、時代の要請に答えたい。具体的には館の改築を促進し、後進的な県民性に文化の、そして博物館の存在意義を印象づける内外の館活動を強力に展開する。



愛媛県熱帯植物園長 窪田 義直

昨年は未曾有の寒波にあい当館自慢の露地植の熱帯性樹木や観葉植物がほとんど枯死したので、一部は復旧しましたが、元のようにするには相当苦難な道があります。本年は各地に出向して皆々さま方の御指導と御協力を得て珍種を収集して園内を充実し、来園の方々に喜んで頂けるよう努力致すつもりであります故、どうかよろしくお願ひします。

香川県自然科学館長 淀谷 秀雄

備讃瀬戸を見おろす五色台(海拔400m、面積55Km²)上に県内中学2年生を対象に発足した集団宿泊学習(3泊4日)も8年目を迎えた。学習コース(16コース)も選定され、中学生たちは希望コースで生物・地学・人文の各領域の学習を自然の中で楽しんでいる。

幼稚園児の自然保育、小学生の校外学習もさかになりつつある。それらの学習効果を高めるため指導方法の開発をさらにすすめたい。また、採集資料の展示のくふうをはかり、学習と展示の一体化をはかりたい。

山口県立山口博物館長 末 富 義 明

当館は大正6年4月に県立教育博物館として発足しているので創立61年目を迎えます。また、昭和42年10月に改築したので改築11年目になります。まさに旧と新、伝統と躍進を併せもつ博物館といえましょう。この時にあたって、今年は館蔵資料や既往60年間にわたる展示や啓発活動・調査研究の点検と総整理をおこなって、温故知新、長い将来にわたる今後の本館の活動のあり方を十分に検討し、一層の飛躍に備えたいと思います。

鳥取県立博物館長 前田 壽 男

1. 77年度に開催した3つの特別展は予期以上の成果を収めたが、常設展は開館6年目を迎え漸減の傾向あり、これが刷新のため、常設展の充実改善を図りたい。
2. 資料収集を積極的に進め、本館が名実ともに県内の自然科学系センターたるにふさわしい施設にしたい。
3. 教育普及活動を精力的効果的に展開し、県民各層の文化的学芸的ニーズに答えたい。
4. 特別展ではかなり大規模な「縄文の文化展」の開催、またはじめて県内(3市町村)巡回展の実施を企画している。

和鋼記念館長 住田 勇

昨年11月、出雲の奥地でたたら火がともされました。この和鋼の製造再開で、日本刀の研究は更に進むことでしょう。

たたら製鉄自体もまだ謎の部分がある。この分野を研究される人たちのためにも、当館の資料蒐集は今後とも続けなければならぬであろうと思っています。

神戸国際港湾博物館 平 植 勝

当博物館は、本年開館15周年を迎えるにあたり、従来の展示品を大胆に整理し、展示部門を港湾と船舶海運の2つにしぼり、2か年計画に沿って資料の整備収集に努力し、神戸市民の方に喜んで見ていただける博物館、かつ、国際港湾都市神戸にふさわしい高度な港湾博物館としていくよう努力いたします。

新しい年を迎えるにあたり、全科協の皆様方の一層の御協力と御指導を賜りますようお願いいたします。

岐阜県博物館長 松尾 克美

はや開館3年目を迎える年になりました。当館は斬新的な企画による今日の総合博物館であり、生涯教育の一拠点ともなるべき使命もあります。

いつまでも新鮮な博物館であること、そして常に利用者と一体になって活動できる博物館になることを心がけて、計画的に根を張った活動を行うよう努力したいと思います。

皆様の一層の御指導と御援助をお願いします。

伊良湖自然科学博物館長 伊藤 務

当館は昭和51年度から渥美半島の古代遺跡の発掘を手がけ、5か年計画のもとに毎年夏に特別展示会を開催しております。一昨年の「渥美の貝塚展」、昨年の「船の歴史展」に続いて、本年は第3弾として、渥美半島に数多く残る古墳の出土品を中心に「渥美半島の古代文化展（仮称）」を開催して、地方古墳の特色を表現し、地域に密着した博物館として、地域社会の文化高揚に少しでも役立ちたいと考えています。

熱川バナナ・ワニ園長 木村 巨

新しい年を迎え、各館園では、変貌激しい社会の情勢に対応し、地についた自然科学普及をいかにすべきか鳩首されていることと推察します。植物園も同様、その対応策について様々な議論が交わされています。しかし何はともあれ資料の確保が基本であり、資料を充分もってこそその対応も可能となる筈。これを持論として当園で

は従来より植物収集に努めていますが、特に今年はカタテア、マランタなど、近年我が国で、その保存がやや疎かになっている観葉植物を中心に、更に系統収集に力を投ずる所存です。

神奈川県立青少年センター館長 渡辺 猛 男

本年は、青少年の健全育成の場として、魅力ある館とするために、科学展示場の整備、充実を図りたい。航空機関係の実物展示導入、ミクロの世界への集い、展示教室等を通じて、青少年の科学への興味を喚起し、科学する心への手がかりを積極的に与えていきたい。社会情勢のきびしい昨今、財政的にひっ迫している状態であるから、創意工夫で県民のニーズに答えたい。また全科協を通じて、情報交換を一層密にして頂ければ幸いです。

神奈川県立博物館長 北林 一 光

「神奈川の歴史と自然の博物館」も、この春には11歳になる。春には、寒風が吹きあれているといわれているが、春夏秋冬の廻りは、これ天地自然の理——主体性をもって、一致協力していけば、おのずから途は開けるものと信じている。今年のヤマ場としては、夏の特別展「小笠原の自然」、秋の芸術祭には「日本の民窯」展を予定している。昨年は「化石—ジュラ紀の生物—」、「神奈川の仏像展」が、広い支持を得た。「地球は青かった」——そこに生きる人間のロマンを、願わくばこの小天地に展開していきたいものである。

NHK放送博物館長 太 齋 嘉 行

今年はテレビ放送開始25年になりますので3月にはこれにちなんだ特別記念展示を実施するほか、6月下旬から学校の夏休みにかけて東京から遠隔の地方都市で移動放送博物館を3か所において開催を計画中です。

また従来実施中の記録映画会の内容を更に充実して来館者のサービス向上をはかりたいと思っております。

交通博物館長 古 谷 善 亮

新しい年の課題として、当館では特に効果的な展示と、環境整備に重点をおくようにしたい。

展示においては実物資料の展示とその可動化、収蔵資料を順次転換展示をすることなどがあげられる。

また、建物が老朽化して、その環境整備が遅れているので、空調設備などを既設のものに追加して、少しでも良い環境の場で、生きた展示を入館者に提供したい。

労働省産業安全研究所長(産業安全技術館)**川口邦供**

産業安全技術館はこれまで、安全技術の変せんの解説パネルをはじめ各種の災害防止にかかわる安全装置や実演装置等の展示活動を主体とし併せて相談業務等を行ってきましたが、最近の当館に求められるニーズの比重は、「展示による教育サービス」から「安全技術の情報提供サービス」へと大きく変わってきています。このような昨今のニーズに対応するため、本年は安全技術に関する文献資料をマイクロフィルム化し、その中から希望に応じて検索抽出できるシステムを導入したいと思っています。

逋信博物館長 和田敏夫**1. 魅力ある博物館活動の展開**

郵政文化の啓発と普及を期し、当館の主要展示である世界の切手17万種類について陳列ケースの改良計画が具体化の運びとなったので、これを機に切手コーナーの充実を図り、より親しまれる博物館活動を推進する。

2. 資料の充実と積極的活用

信頼される博物館活動を目指して、資料の積極的収集と整理保存の充実ならびに調査研究の徹底を図る。

天文博物館五島プラネタリウム館長 楠木政岐

昨年4月1日は当館開館満20周年の記念すべき日を迎え、いよいよここに成人に達したのであります。これを節に本年は過去の実績の反省の上に立って、一歩前進を考えております。それにはまず、当館のメインである投影内容についての再検討を行い、更に加えて展示の更新、企画実践の具体案を一年がかりで行いたいと思う次第であります。よろしく御指導の程をお願い申し上げます。

電気通信科学館長 白根禮吉

開館3周年を迎える年にあたりますので、これまでの一般来館者対象の常設展示、特別展示から一歩進んで、中・高校生の理科教育のボランティア活動を支援するプログラムを展開するつもりです。

具体的には創造コーナーを作って、電子技術の実験や工作、基礎理論講座などを実施し、テレコムクラブ活動を定着させます。

また常設展示の一部追加と改善も進める計画です。

東京都児童会館長 村上七郎

児童会館の機能は、利用児童へのサービス、地域児童館へのサービスという機能のほかに、遊びを保障する環

境づくりを新たな機能として設定し、昨年2月には全職員の見議を経て、その総意のもと「児童会館のあり方と整備に関する考え方」をまとめました。

この指針にもとづいて、本年度はより一層その整備達成に努める積りです。特に科学展示関係では大巾な改修を計画しています。どうぞ本年もよろしく願ひいたします。

東京農工大学工学部附属繊維博物館長 金子六郎

当館は昨年ようやく文部省から認可され、工学部附属の機関として独立しました。それに加えて強力な助手(文部教官)のスタッフを迎え入れることができ、清新な活気がみなぎって新しい当館発展の前途など、熱い討論を連日重ねております。当面の目標としては従来からの当館の方針であるタッチ・アンド・トライ方式をますます充実させていきたいと考えております。

火山に死火山・休火山・活火山がありますように、博物館も同様で、一時休眠状態にあった当館はここ数年胎動を開始しつつあります。今年は一層の御協力により一人前の「活火山的博物館」に成長したいと館員一同念じております。

農林省蚕糸試験場長 福田紀文

今日、わが国の農業はきびしい環境にたたされておられ、蚕糸業もその例外ではありません。しかし、絹の消費は世界的に増大しており、またわが国においても国民生活の高度化および多様化に対応して今後も絹に対する需要は拡大するものと思われます。

当場は国立の試験研究機関として蚕糸に関する基礎的研究の充実を図るとともに、革新的な技術の創出につとめ、わが国の農業および蚕糸業の安定に寄与することに努力しております。また、国内のみならず世界の蚕糸技術についても指導的な役割を果たし、世界の蚕糸業の発展に寄与したいと考えておりますので、御支援をお願いいたします。

船の科学館 山下正雄

多事多難であった昭和52年もあわただしく過ぎ去ろうとしている。本年中には船の科学館においては種々の企画が行われた。即ち年中無休開館、はとパスの導入、食堂の自営、無料送迎パスの設置など職員の協力を得て、博物館活動の積極化、収支改善の努力が払われ、ある程度の成果は挙げたが決して期待した程度には達しなかった。

我々は青少年教育、社会教育のため活動の積極化、施

設の改善の努力をおしむものではないが、なぜに私立博物館に対し行政上、税制上の援助が他の博物館に比し少ないのか、職員の懸命な努力を省りみて空しい気持ちになる一瞬がある。今年こそは私立博物館事業の助成に対し何等かの成果を得たい。

アリタキ・アーボレータム園長 有瀧龍雄

昨秋11月2日には国立科学博物館開館百年の記念式典に参列、陛下の科学教育についてのお言葉に深い感銘を覚えました。本年は、昭和52年度日本植物園協会海外植物調査隊に参加させた本園職員の入手した植物の育成、観察を進めたい。また小生は1月8日から南米方面へ出

張の予定で、なるべく多くの植物園や博物館を見たいものと願っております。本年もなにとぞ、よろしく御指導を賜わりたく願ひ上げます。

山形県立博物館長 誉田慶恩

昨年から3か年計画で全面的展示替工事にはいっており、今年はその第二年に当たる。精力的にこれにとりくみ、わかり易い展示に面目を一新し、県民に親しまれる博物館にしていきたい。相談コーナー、学習コーナーをつくり、講座等を強化し、友の会結成の素地をつくっていきたい。巡回展及び自然と郷土学習教室を県内各地で実施し、県立博物館としての役割をはたしていきたい。

特別展「化石～ジュラ紀の生物～」を終えて

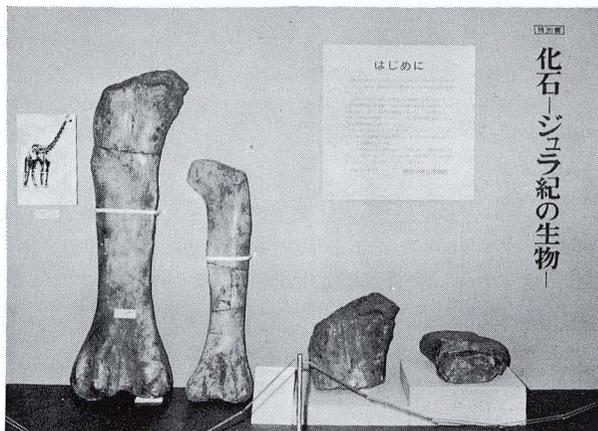
神奈川県立博物館

昨年夏7月23日から8月31日（開館日数32日間）まで、当館では特別展「化石～ジュラ紀の生物～」を開催した。

ちょうどニュージーランド沖で発見された『南海の怪獣』騒ぎにあわせたわけではなかったが、予想以上の観覧者数を動員でき、盛会裡に無事終了することができた。

本館は昭和42年に総合博物館として開館以来10年になり、毎年3～4回の特別展を開催してきたが、化石だけをテーマとした特別展は開かれなかった。また、これまで長年にわたって多くの入館者より「化石」展を熱心に要望されていた。そこで地学部間では開館以来、永い地球の歴史の流れの中から神奈川県土の姿を正しく理解するため、県内産の化石だけではなく、広く各地質時代の示準化石の収集・調査を進めてきた。幸いにして中生代ジュラ紀の資料がかなり系統的に集まり用意できたため、ジュラ紀の生物に焦点を絞って特別展を企画した。

さて、ジュラ紀とは恐竜時代がよく知られている中生代のまん中の時代をいう。今から約1億9千万年前にはじまり約1億3,500万年前までの約5,500万年の期間にあたる。この時代に入ると気候は温暖になり、特徴ある動植物が栄えた。中でもは虫類ははだいに巨大化・特殊化して地上だけでなく湖沼、海中、空中などさまざまな環境に適応し、形を大きく変えていった。また、鳥類（始祖鳥）や原始的ほ乳類も現われ、すべての脊椎動物が出揃った重要な時代でもある。一方、無脊椎動物の世界では、現在わずかに生き残っているオウムガイの兄弟分にあたるアンモナイト、イカの仲間のベムムナイト、形の



ボスリオスポンジルスの大たい骨（高さ2 m）

美しい三角貝あるいは海ユリ、サンゴ、昆虫などが著しい発展をみせた。植物では現在あまり発展していないイチョウやソテツの裸子植物とシダ植物が生い茂っていた。このような変化に富み、夢と魅力に満ちたジュラ紀の世界を、保存のよい化石・標本、模型、写真や復元図などを用いて系統的に展示し、復元してみた。

その内容は次の14のテーマに分けて構成した。

(1) プロローグとしては、この展覧会の主旨と大型草食恐竜ボスリオスポンジルスの大たい骨（高さ約2 m、複製）の展示、恐竜の世界への導入とした。

(2) 凶暴な肉食恐竜。アロサウルスの頭骨の複製、爪、胃石とその復元図、恐竜の進化系統図などからこの時代の陸上の王者を解説・説明した。

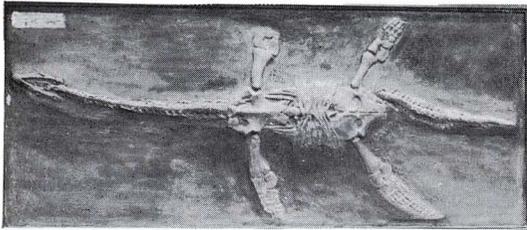
(3) 大型の草食恐竜。ディプロドクスの脊椎骨、ステゴサウルスの上腕骨、カマラサウルスの頭骨とそれらの

復元図から大型恐竜を説明した。

(4) 怪奇な翼竜。プテロダクチルス、ランホリンクス、ティゴラムビスなどの全身骨格の標本や複製ならびに復元図から空を支配した、は虫類を解説した。

(5) 最初の鳥—始祖鳥—。ベルリン標本の複製と最近発見された第6番目の始祖鳥のカラー写真、始祖鳥の復元図を用いて鳥類の起源について説明した。

(6) 強暴な海竜。首長竜プレシオサウルス、魚竜イクチオサウルス、ワニの全身骨格模型、それらの復元図やジュラ紀の海陸分布の大型パネル、海生は虫類の進化系統図などによって海にすむは虫類を解説する。



首長竜プレシオサウルス（体長約1.8 m）

(7) 代表的な魚類。サメの仲間エイ、光鱗魚アスピドリクス、ギロダスヤリコプララの標本と復元図を示す。

(8) 示準化石—アンモナイト—。これはこの時代になって繁栄の頂点に達した。しかも形が時代と共に変化し、その変化が識別し易いので地層の対比をしたり、時代を決定するのに使われた。ジュラ紀では約60の化石帯が認められており、代表的なもの55点を展示、解説した。

(9) 繁栄の著しい貝類と代表的な無脊椎動物。例えばアンモナイト以外にベレムナイト、カキとグリフェア、三角貝、巻貝などの貝類、他にサンゴ類、腕足類、海ユリ、ウニ、昆虫など。それらの代表的なものを約40点余り展示し、華やかなは虫類の世界の影にかくれて別の生物の世界がみられたことを示した。

(11) ホルツマーデンとゾルンホーフエンの化石群。共に西ドイツにある世界的に有名なジュラ紀の化石産地で、ホルツマーデンの頁岩からは魚竜、首長竜、ワニ、海ユリ、アンモナイトなど大型化石が極めて保存の良い状態で産出する。ここでは代表的なものとして海ユリと

アンモナイト、ベレムナイト標本を展示した。一方、ゾルンホーフエンの石版石からは始祖鳥をはじめ驚異的に保存の良い珍しい化石が多産する。その中からカプトガニ、ウチワエビ、トンボなど10点の標本と産地の風景、化石採集状況の写真を共に展示した。

(13) 切手に表された古生物。始祖鳥、プロントサウルス、ステゴサウルスなど多くの古生物が各国で切手になっている。誰にも興味を持たれたコーナー展示となった。

(14) エピローグとしては日本のジュラ紀をとり上げて、日本産の化石を産地ごとに展示した。a) 山口県豊浦の化石群、b) 鳥巢の化石群、c) 長野県来馬統の植物化石、d) 群馬県岩室の植物化石群、e) 宮城県志津川の志津川竜と貝類化石、f) 手取層群の植物化石群と手取竜、を基に日本列島のジュラ紀の様子を解説。

以上の内容による展示を行った。化石の展示は一般に地味でしかも断片的なものである。特に大型の生物になればなるほど掘りだされる部分はごく一部分となりうる。そのため、いかに誰にでも理解できるようにみせるには、どうしても復元図にたよる。適切な復元図のない場合は解説文にかたより、いきおいむずかしい文章となり化石が生きたものとならない。

今回の展覧会は、テーマをジュラ紀というごく限られた時代の生物だけに絞ったことと、保存のよりすぐれた標本ばかり集められたこともあり、個々の資料から充分にその生物の生きていた様子を読みとることができ、観覧者に楽しみながら見学していただけた。また夏休みに入り、突然起きた「怪獣」騒ぎが連日報道され、そのモデルといわれた首長竜プレシオサウルスの化石が見られることもあり、多くのテレビやラジオ、新聞なども強力に取り上げ、時にテーマごとを続きものとして連載しPRしていただけたのも幸いした。

終わりにこの展覧会の開催にあたり、貴重な標本を特別にお貸しくださった国立科学博物館、東京大学総合研究資料館、横須賀市博物館、東京学芸大学地学教室、横浜国立大学地学教室、筑波大学地球科学系、千葉大学地学教室ならびに凡地学研究社に深く感謝の意を表するしだいである。
(松島 義章)

特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ」について

斎藤報恩会自然史博物館

科学者としての「レオナルド・ダ・ヴィンチ」の業績展は斎藤報恩会自然史博物館が改築再開館して、去る昭和52年11月をもって満1年を迎えるに当たり、1周年の記念特別展として立案、企画し、国立科学博物館に展示資料の提供について相談し、快諾を得ておりましたとこ

ろ、6月の全科協の総会に於て、全科協事業の一環として希望館へ巡回することが決定されたので、当館が最初の地方巡回として、開催することができました。

この特別展開催についていささか、感想を申し述べて御報告致したいと思ひます。
(7Pへつづく)

(6Pより)

そもそもダ・ヴィンチは、ルネッサンスの生んだ万能の天才と称せられ、芸術家として「モナリザ」等の絵画を通し一般に、早くから知られているが、科学者、技術者としての業績を紹介できる資料は少なかったようです。

幸いに日本アイ・ビー・エム(株)が、ダ・ヴィンチの研究家ロベルト・ガツテリ博士に依頼して製作した、彼のスケッチにもとづく機械装置35点が国立科学博物館に寄贈されておりました。この実物資料の展示により、彼の科学に対する独創的な考察を資料を通して学ばせ、500年という時間をとび越えて今日、各分野にわたって応用され、適用されている事を理解させる事によって、創造的な興味と、疑問をもたせ、青少年の科学への探究心を啓発させる事を趣旨として開催致したのであります。

展示資料35点は大変コンパクトに、又それぞれ独立した資料として、そのものだけで充分観覧者に理解せしめられる特徴があるため、会場のスペースやディスプレイに関係なく自由に陳列できる利点は、他の特別展における各種の困難さと比較して大変ユニークなものでした。

このようなことから、見て理解できる資料、約半数はケース展示とし、動かすことのできる資料の半数は空間陳列としたが、機械装置という性質上、資料の機構の細部の観察という面から、ケース内展示より評判がよく、その上、直接触れさせる事は不可能であるが、団体や、希望者に対しては、館職員の手により装置の可動と同時

に説明を行う事によって、興味と理解を深めさせるように実施する事ができた。

又機械装置という冷たい感じを和らげると同時に、ダ・ヴィンチの多面性の紹介を兼ねて、導入部に於て、一般に馴染みのある「モナリザ」等、2・3の絵画や、植物学、地形学等の観察で知られる絵画、その他を写真、解説パネルで補足展示を行い、親しめる雰囲気になるよう配慮した。

更に、展示そのものの理解と同時に、なお一層、ダ・ヴィンチの人柄の紹介を深めるため、国立科学博物館の青木工学研究部長の講演と、映画「レオナルド・ダ・ヴィンチ」(日本アイ・ビー・エム所有)を会期中間に於て実施した。内容的に質の高いもので好評を得、その反響の結果か、学校側の要請で3度程、映画のみの上映であるが、実施できた事は大変成功であったと考えている。

最後になりましたが、このたびの特別展に、国立科学博物館・工学研究部長青木国夫氏、並びに、石橋室長には多大の御援助、御指導を頂いた事を紙面を借りて感謝致しますと共に、併せて開催に際しては、機械装置の寄贈者である、日本アイ・ビー・エム(株)関係者の多大の協力を得ました事を附記致したいと思います。

特別展内容

1. 名称 科学者としての「レオナルド・ダ・ヴィンチ」の業績展
2. 主催、会場 斎藤報恩会自然史博物館
3. 会期 昭和52年10月1日～11月3日
4. 後援 宮城県・仙台市教育委員会、河北新報社、東北放送
5. 協賛 日本アイ・ビー・エム株式会社

アイデア・コーナー(博物館の現場から)

既製パネルの改良

パネルの革命とは少々オーバーであるが、ウッドラックパネル(商品名)(発泡材ボードに粘着材を付けたもの)の普及は当館にとっても例外でなく、小型パネルの大半をとって変わるようになった。しかしながら、この手軽なウッドラックパネルも又、パネル貼りのデメリットである互換性を持たず、収蔵資料の展示利用や展示の後で研究資料となりうる海外からのポスター類などには利用できず苦慮していた。

そこでこのウッドラックパネルと従来の額の考え方をミックスして、ウッドラックパネル部分はベニヤ板とし、他はすべてウッドラックパネル方式、つまりアルミ枠、ビス止めとした。これによって資料はパネル板の糊付けから解放され、互換性が生まれたことにより資料の保存が可能となった。これらの作業もドライバー一本でできるようになり一石二鳥の効果を生んでいる。また館では、パネルに原則として塩化ビニール板(1mm厚)被カバーを併用し展示中の塵及び人為的



な汚濁から資料を保護している。

これまで催しを重ねるたびにパネル収蔵庫を山にしていたパネル資料も現在では資料はロッカーに分類整理され、必要最少数の規格化されたパネルは次の利用を待ち、収蔵スペースの高率利用を可能にし、あわせて経費の節約を生んでいる。

(交通博物館展示課 和田)

 会員館園の紹介

横須賀市博物館

横須賀市博物館は1954年4月、日本の開国にゆかりの深いペリー上陸の地、久里浜に開館しました。1970年、市の中心部、中央公園内、横須賀市文化会館の隣接地に本館（主に自然部門）を建設し、収蔵資料の大部分はこの際に移転しました。1976年、本館に重要有形民俗文化財収蔵庫（441 m²）も併設されました。現在久里浜の分室（人文部門）は考古資料と有形民俗文化財の展示場として従来通り開館しています。近い将来本館増設の際、これ等の資料も移転、展示され、総合博物館としての使命を継承します。

主として、三浦半島を中心とした自然、人文系の博物館ですが、特に地方の特色ある博物館として、次の6つを目標として運営しています。

1. 三浦半島の自然、人文をわかりやすく展示した博物館

本館の約874 m²の床面積を利用した展示は2階が三浦半島や横須賀を主体とした目的展示でジオラマなどの大型模型を中心とした展開がなされています。1階は三浦半島の自然を母体とした分類展示で構成され、特別展示室としての発光生物展示は世界で唯一の展示です。

2. 資料を収集し、分類し、永久に保管する場所としての博物館

およそ51,000件を上まわる自然史資料はすでに開館当時の4室の主な収蔵室だけでは充分な保管体勢とはいえない程の現状に達した。市民の世襲財産としてのこれ等の資料は現在収集力が増加する一方であるので、それに伴った保管設備が必要をせまられています。めったに一般公開されることのないこれ等の貴重な資料も市民施設見学会の際に公開され、喜ばれていると同時に資料の多さに驚かされているようです。図書資料は35,000点程が登録されています。

3. 研究機関としての博物館

よりよい展示を行うための基礎的な研究に熱が必然と入り、各方面でアカデミックな研究成果が報告されています。博物館の出版物も内容が充実し、研究報告、館報、教育資料シリーズ（現在24巻）も定期的に出版されています。今後は資料要覧を中心としたシリーズものも準備が進められています。

4. 社会教育の場、とくに市民サービス機関としての博物館

5. 地域社会の学校が利用できる博物館

近年急速に発達してきた教育問題の中でもとりわけ、博物館としての特殊性を考慮した「生涯教育」の場とし

ての存在が強くなりました。講演会、研究発表会、映画会、自然観察会など博物館が主体となる行事の他にも「婦人学級」、「成人大学」などアウトサイダーとしての博物館職員の業務



も増加し、幅広い博物館利用の普及と宣伝につとめています。原則としてこれらの行事には誰でも自由に無料で参加できるようになっています。学校児童生徒のために設置されている科学教室なども市民のグループ活動の場として資料や施設が多く利用されています。

6. 人文、自然文化財の保護の立場に立った博物館

急速な開発が進んでいる三浦半島の各地域や文化財等の保護保存は決して現状では充分とはいえません。代表的な三浦半島の原始景観をいち早く保護したことが現在の博物館施設の中でも最も高く評価されてよいと思われるのが次の2つの自然教育園です。「海の自然教育園（横須賀市佐島）」、「森の自然教育園（横須賀市馬堀）」。これ等の地域に生息する生物は博物館の展示室にみられる資料ではなく、実物であることが生命の価値感を市民にうえつけ、自分自身で体験できる数少ない貴重な施設です。年々増え続ける一方の利用者数がそれを証明しているのではないのでしょうか。博物館教育の思想普及にも大いに効率の高い施設といえましょう。（林 公義）

所在地 横須賀市深田台95 ☎238
電話 0468(24)3688(代)

観覧案内 入館無料

開館時間 午前9:00～午後5:00

休館日 毎週月曜日・国民の祝日の翌日

12月29日～1月3日、資料整理日(毎月末日)
なお、両自然教育園については、上記の休園日のほか、水曜日の午後は休園とします。

あつがき

・編集の都合で、第7巻第6号と第8巻第1号を合併号としてお届けします。御了承ください。

スライド整理学

—— スライドの分類・整理の試み ——

東京芸術大学 前野 まさる

はじめに

一般にスライドは、現像所から送られて来たものを、手にとって見るまでが楽しみで、その後の管理運用は誠にやっかいなものである。私の在職する美術学部は視覚芸術を扱う関係上、スライドは不可欠の教材である。私の授業もスライド併用にすることが多い。授業に使うまではよいのだが、使用后、元の箱にもどすのが面倒でそのままになってしまい、次回に使う時大騒ぎをすることがしばしばある。私はこのことに懲りて、10年程前からスライドの分類整理をはじめ、今ではスライド探しの苦勞から解放されている。学生時代に撮ったスライドもこの分類によって整理し、日常的に役に立っている。もっともこのことでは、いろいろとスライド整理の秘術をお持ちの方も多くおられることと思っている。それらの秘術がそれぞれ個人の書齋の中に閉じ込められているのももったいないので、今回本誌上を借り、まず私のスライド整理学を叩き台に諸氏の御批判御助言をいただき、併せて秘術の交流と、スライド整理で悩まれている方々へ多少のお手伝いができるならば幸いと思っている。

スライドの分類

35mmフィルム1本のコマ数は言うまでもなく、20コマから36コマある訳だが、1本のフィルムの写真の内容は何かまとまった物を撮らない限り、様々な物が写っている。これらを現像所から送って来るスライドの箱に収めていたのでは、利用も管理も困難である。当然何らかの方法で分類する必要が生じる。分類は個人の好みや考え、あるいは手持ちスライドの傾向で決めればよい。例えば旅の好きな人は地域別で分けるのもよいし、野鳥の好きな人は野鳥の種類、また地域と種類をからませて分類するのもよかろう。これも枚数の少ない間はよいが、2,000枚、3,000枚を越すと混乱が生じ始めてくる。聞くところによると、図書も蔵書が3,000冊を越すと、専従の管理者と分類が必要になってくるとのことだが、スライドもまた同様である。

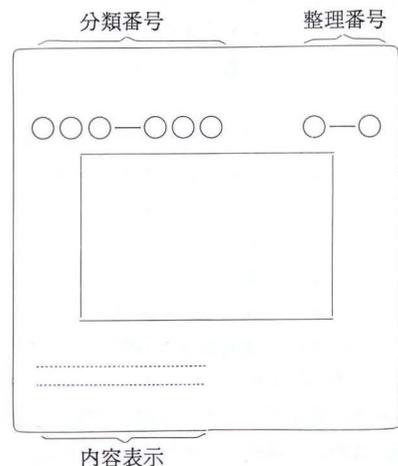
私のスライド管理が混乱し始めたのも、約100本分のスライドが溜まりだしたころからであった。その混乱に対処する術をいろいろと探し、たどり着いたのが実は図書の分類法であるNDC（日本十進分類法）の分類法を応用することであった。図書の分類法にはNDCの他にNDCの基になっているアメリカのデューイが作成した

十進分類法（DC）、その国際版UDC法、またアメリカ国会図書館が作成したLC法などがよく知られている。LC法は分類にアルファベットを記号に使っている。私はアルファベットより、数字の方がなじみ易いので、NDCならば日本では一般的であるし、分類資料が手に入り易いことからこの方法に踏み切った訳である。

NDCの分類法については日本図書館協会から「NDC日本十進分類法」が出版されているので、詳細はその方を参照していただきたい。ここではその概略に触れスライドへの応用法の試みを述べてみたい。

NDCの分類番号は「類」「綱」「目」の3桁に分かれ、それぞれの桁を0から9の10区分に分類している。つまり、「類」で10区分した1区分を「綱」で更に10区分し、「綱」の1区分を「目」でも先と同様に10区分する方法をとっている。したがって000を含め類綱目の桁で1,000の分類ができることになる。この分類番号で0番は常にその各段階区分の1～9のどれにも属さないものが含まれる。しかしこの3桁の主要分類番号だけでは実用に供し得ないので、更に1～4桁の細目分類を行っている。「類」および「綱」の分類はNDCの百区分表を別表に掲げておくので参考にしてほしい。

私のスライド分類は、主要分類番号の3桁と、3桁の細目分類番号の6桁、および2つの整理番号で行っている(下図)。主要分類番号はNDCのものをそのまま使い、細目分類はNDCの補助的な分類表である助記表をもとにして行った細目分類番号を使っている。私の専門分野の建築を例にそれを説明するとNDCによる建築の主要



分類番号は次の通りである。

- 520 建築学
- 521 日本建築史および様式
- 522 東洋建築, アジアの建築
- 523 西洋建築
- 524 建築構造
- 525 建築設計, 建築施工
- 526 各種の建築
- 527 住宅建築
- 528 建築設備
- 529 建築装飾, 建築意匠

この分類の内521~523を建築史的なもの, 524~529を設計計画的なものに分け, 521~523を6桁, 524~529を3桁のままにしている。これは私の手持ちのスライドの内容に片寄りがあるためである。521に関する細目分類は, 左より2桁を時代, 3桁目を建築種別になっている。建築種別番号は522, 523とも数字桁位置とも共通である。

- 521—10 原始
- 20 縄文~古墳時代
- 33 飛鳥時代
- 35 奈良時代
- 36 平安(弘仁)時代
- 37 平安(藤原)時代
- 40 鎌倉時代
- 46 室町時代
- 48 桃山時代
- 50 江戸時代
- 60 明治時代
- 70 大正時代
- 80 昭和(第二次世界大戦前)
- 90 昭和(第二次世界大戦後)

細目分類3桁目(建築種別)は

- 521—...0 都市, 公園
- 1 神社, 神殿, 記念物
- 2 宮殿, 城, 行政
- 3 寺院
- 4 手足的施設(工場, 駅, 大梁間建築)
- 5 頭的施設(教育, 金融, 商業建築等, 小梁間建築)
- 6 独立住居
- 7 集合住居
- 8 家具, 建築関連の民俗民芸
- 9 建築関連の美術

522(アジア, 中近東, アフリカ, オセアニア), 533(ヨーロッパ, 南北アメリカ)の細目分類は左より1桁目を国別, 2桁目を時代, 3桁目を521と同様, 建築種

別になっている。

- 522—1 韓国, 朝鮮
- 2 中国
- 3 東南アジア諸国
- 4 オセアニア諸国
- 5 インド
- 6 トルコ
- 7 中近東諸国
- 8 北アフリカ諸国
- 9 その他アフリカ諸国

トルコを独立させたのは, トルコのスライドを多く持っているためである。

- 523—1 バルカン諸国
- 2 イギリス
- 3 中欧諸国
- 4 フランス
- 5 イベリア半島諸国
- 6 イタリア
- 7 北欧諸国, ソヴィエトロシア
- 8 北アメリカ諸国
- 9 南アメリカ諸国

細目番号の2桁目時代区分は

- ...—0・風景, 自然
- 1 原始
- 2 青銅器文化, 古代エジプト
- 3 古代ギリシャ, 古代ローマ
- 4 中世
- 5 近世(16C~17C)
- 6 近代(18C)
- 7 近代(19C)
- 8 現代(20C. 第二次世界大戦前)
- 9 現代(20C. 第二次世界大戦後)

以上が私の手持スライドを対象にした分類法である。これは基本的な分類をNDC法によっているため6桁になってしまったが, 手持ちスライドの傾向が決まっている場合には, 主要分類番号の頭2桁を省略し, 細目分類番号を加えて4桁にすることもできる。

整理法

スライドを分類するだけでは整理はつかない。整理するためには各スライドのコマ位置を決める必要がある。このコマ位置設定に, 私はスライドが20枚セットできる市販のスライドファイルシートを使っている。(写真)このシートの左または右肩の1コマを分類, シート番号とシート内容の表示に用い, 残る19コマに1~19のコマ番号を記入する。各スライドにはスライドの収まるシー

ト番号をあわせて記入しておく、いわばスライドの住居表示のようなものである。シートは分類ごとに作成し、各分類ごとのシートの通し番号をつける。こうしておく、スライドを何百枚使っても、短時間のうちに元あった位置にもどすことができる。しかも使用者がもどさなくても、他の人でもそれができるし、貸し出しをすることも可能である。シートに欠コマがあった場合、貸し出し手続きさえ確実にしておけばそれが紛失であるかどうかチェックすることができる。

この整理法で問題となるのは、あるスライドと関連するスライドが追加された時にそれを収めるシートのコマがない場合、また関連するスライドが飛び飛びに入る場合である。そのような時には、該当シートの次に「'」印付き番号とか・ー2番の新たなシートを割り込ませるか、あるいはその関連するスライドが、将来増える見込

みがあればそのスライドを引き出して、特定の内容表示、例えば「法隆寺」というような独立したシートを作ることになっている。これを頭文字の発音で「H」でまとめる方法もあるし、また所在地ごとにまとめてもよい。この措置は多少急場しのぎで不完全である。なかなかこれに代わる名案も浮かばない。

おわりに

以上が私独りが悦に入っているスライド整理学であるが、先に触れたように分類は何も6桁を使う必要は実際的にはない。2桁もあれば充分である。記号も数字でなくカタカナでもよいし、語彙で分類表示をしてもかまわない訳である。スライド整理にはシート番号とコマ番号を使うのは誠に有効である。私のスライド整理学のセールスポイントはこの点にあるのかも知れない。



写真の内容は撮った人でないとわからない場合が多く、他の人に分類を頼むことは難しい。したがって、撮影者御自身に分類とスライドへの書き込み作業負担がかかってくる。これをするためには禁煙を誓う時のような

決断力と持久力が要るかも知れない。もっと楽に、楽しみながらスライドの分類整理をする方法はないだろうか。どうか御批判御指導をいただきたい。参考までにNDCの主綱表と助記表を掲げておくので御参照願いたい。

主綱表 (百区分表)

000	総記	500	工学, 技扱
010	図書館	510	土木工学
020	図書, 書誌学	520	建築学
030	百科事典	530	機械工学
040	一般論文集, 雑書	540	電気工学
050	逐次刊行物	550	海事工学
060	学会, 博物館	560	採鉱冶金学
070	新聞, ジャーナリズム	570	化学工業
080	双書, 全集	580	製造工業
090		590	家事
100	哲学	600	産業
110	哲学各論	610	農学, 農業
120	東洋思想	620	園芸, 造園
130	西洋哲学	630	蚕糸業
140	心理学	640	畜産業, 獣医学
150	倫理学	650	林業
160	宗教	660	水産業
170	神道	670	商業
180	仏教	680	交通
190	キリスト教	690	通信
200	歴史	700	芸術
210	日本	710	彫刻
220	アジア	720	絵画, 書道
230	ヨーロッパ	730	版画
240	アフリカ	740	写真術, 印刷
250	北アメリカ	750	工芸
260	南アメリカ	760	音楽, 舞踊
270	オセアニア	770	演劇, 映画
280	伝記	780	体育, スポーツ
290	地理	790	諸芸, 娯楽
300	社会科学	800	語学
310	政治	810	日本語
320	法律	820	中国語, 東洋諸語
330	経済	830	英語
340	財政	840	ドイツ語
350	統計	850	フランス語
360	社会学, 社会問題	860	スペイン語
370	教育	870	イタリア語
380	風俗習慣, 民俗学	880	ロシア語
390	国防, 軍事	890	その他諸国語
400	自然科学	900	文学
410	数学	910	日本文学
420	物理学	920	中国文学, 東洋文学
430	化学	930	英米文学
440	天文学	940	ドイツ文学
450	地学	950	フランス文学
460	生物学, 博物学	960	スペイン文学
470	植物学	970	イタリア文学
480	動物学	980	ロシア文学
490	医学, 薬学	990	その他諸国文学

助記表

表A

- 0 総記
- 1 哲学, 宗教
- 2 歴史, 地理
- 3 社会科学
- 4 数学, 自然科学, 医学
- 5 工学, 工業, 技術, 家事
- 6 産業, 農業, 林業, 水産, 商業
- 7 芸術, 運動, 諸芸, 娯楽
- 8 語学
- 9 文学

表B 形式区分 (3桁目は省略した.)

- 01 理論, 原論, 学説, 法則, 哲学
- 02 歴史 (史的研究), 史話, 史料, 事情
- 03 参考図書
- 04 論集, 問答書, 書簡集
- 05 逐次刊行物
- 06 学会, 団体, 会議
- 07 研究, 指導法, 教育
- 08 双書, 全集, 講座
- 09 経済的, 経営的観点

表C 地理区分

地域記号

- 1 日本
- 2 アジア
- 3 ヨーロッパ
- 4 アフリカ
- 5 北アメリカ
- 6 南アメリカ
- 7 オセアニア

表D 日本地方区分

- 1 北海道
- 2 東北
- 3 関東
- 4 北陸
- 5 東山, 東海
- 6 近畿
- 7 中国
- 8 四国
- 9 九州

表E 日本時代区分

- 2 原始時代
- 3 古代 (大和, 奈良, 平安)
- 4 中世 (鎌倉, 室町, 桃山)
- 5 近世 (江戸)
- 6 近代 (明治, 大正)
- 7 昭和

表F 国語区分

- 1 日本語
- 2 中国語, 東洋諸語
- 3 英 (米) 語
- 4 ドイツ語その他ゲルマン語
- 5 フランス語
- 6 スペイン語, ポルトガル語
- 7 イタリア語その他ロマンス語
- 8 ロシア語, その他スラヴ語
- 9 ギリシア語, その他諸国語

表G 国語共通部分

- 1 音韻, 文学
- 2 語源
- 3 辞典
- 4 語彙論
- 5 文法, 語法
- 6 作文, 文章, 文体
- 7 読本, 解釈, 会話
- 8 方語, 俚語
- 9 傍系語

表H 文学共通区分

- 1 詩歌
- 2 戯曲
- 3 小説
- 4 評論, 随筆, 小品
- 5 日記, 紀行, 書簡
- 6 ルポルターージュ (記録手記)
- 7 諷刺, ユーモア, アフォリズム
- 8 作品集 (全集, 選集)